



発行責任者 府中地区保護司会
会 長 谷 合 隆 一

多摩連の保護司全体研修会で学んだこと

府中地区保護司会 副会長 北島 章雄

平成31年1月23日、多摩地区保護司会連絡協議会全体研修会が「発達障害の理解と対応」というテーマで、たましんRISURUホール（立川市）で開催されました。このような全体研修は、平成29年2月の第1回に続き2回目となります。野崎重弥多摩連会長の開会の挨拶に始まり、田中一哉東京保護観察所長よりお祝いの言葉をいただきました。講師は、宮本信也 先生です（白百合女子大学人間総合学部教授、小児科医）。

先生の主な研究テーマは発達障害で、方法論としてはケースに即した臨床研究が中心です。専門家でも難しいといわれる発達障害について、多くの例を挙げ、わかりやすくお話しして下さいました。

《講義の概要》 発達障害の理解と対応

発達障害には、発達全般の遅れや歪みがみられるものと、発達のある側面に遅れ・偏り・歪みがみられるものとある。前者にはASD(autism spectrum disorder,自閉スペクトラム症)が含まれ、対人関係や社会との関係で問題となることが多い。後者にはADHD(注意欠如・多動症)などがあげられる。

保護司が行う保護観察対象者との面接でも、相手に発達障害がある場合、通じていると思った話や指示が伝わっていないこともありうるので、工夫した対応や配慮が必要だ。

当日は、多摩連の保護司、そして更生保護女性会等大勢の方々に参加していただきました。2時間近くにわたる講義の合間に先生の趣味でもある山歩きの写真が挿入され、自然を感じながら受けることができました。また、参加された保護司の今後の活動に大変役に立つ講義であったと思います。懇親会の席で先生は、発達障害があっても、病気でもなければ障がい者でもない、回りの人が気にかけていればよいとおっしゃっており、心に残りました。



講師 宮本 信也 氏
(白百合女子大学教授、小児科医)

《講師 プロフィール》

青森県弘前市出身

1978年 金沢大学医学部卒

1998年 筑波大学心身障害学系教授

2007年 中央更生保護審査会委員

2018年 現職

著書「保護司のための発達障害 Q&A」
他多数

第7ブロック協議会に参加して

保護司の安定的確保と

保護司の育成

（東京の保護司活動を次代に

つなげるために）

研修部 奈良崎 芳恵

平成30年10月23日、武蔵野スイングホールに於いて、第7ブロック保護司組織運営連絡協議会が開催されました。府中からは谷合会長ほか15名が参加しました。北多摩東地区星野会長の開会の辞に続き、東京保護観察所田中所長と東京都保護司会連合会永見会長の挨拶がありました。東京保護観察所立川支部西平統括より趣旨説明があり、その後全体協議に移りました。

第7ブロックに属する5地区から基調報告があり、府中地区からは那須保護司が代表で報告しました。保護司候補者の確保に向けた取組では、保護司候補者検討協議会（委員16名）の年2回開催が定着し、有効に機能していることをわかりやすく具体的に説明しまし



た。新たに委嘱された保護司の育成

に関する課題と方

策については、サ

ポートセンター駐

在当番の時間に経

験豊富な保護司が

同席することで、情報共有や質問し

やすい機会がもてることです。また

ここ数年、新人は同期として支えあ

えるよう工夫するとともに、研修部

に所属し声をかけて行事に参加して

もらっていることを発表しました。

各地区からの報告の後、質疑応答

がありました。各地区それぞれ抱え

ている問題や悩みなど、共感できる

点も多かったように感じました。協

議会に続き懇親会もあり、和やかな

雰囲気の中有意義な時間となりました。

保護司候補者の確保と保護司

委嘱後の育成については、各保護司

会にとつて今後も重要な課題である

ことを再認識する機会となりました。

貴重な研修会に参加させていただ

きとても実り多い一日となりました。

今回の研修を活かし、保護司同士切

磋琢磨しながら、これからも日々成

長していきたいと思えます。



活動を楽しく、誇りをもって

広報部 若松 正子

各地区から、安定的人材確保（発掘）のための働きかけや新人保護司の育成についての取り組みについて報告がありました。ある地区では組織的な取り組みが効果的に運営されているが、ある地区では苦勞の割には成果が上がっていないという報告があり、地区によって様々でした。

しかし、それぞれの事情を抱えながらも、更生保護と保護司会活動に對して楽しく心豊かに余裕をもって従事できていること。また、そのことに誇りをもって活動できていることが結局は人材確保につながること。この二つが各地区に共通する重要な点なのではないかと思えました。

府中地区から参加した協議員からは、次のような感想を聞くことができました。

*府中は人材確保のための組織ができていて、20年前から活動していることを改めて素晴らしいと感じた。

*分区がないことが、活動しやすく、チームワークが良く取れる利点なのかと思つた。ともに共感できる感想でした。

府中警察だより

府中警察署生活安全課

少年第1係 係長

西澤 正大

振り込め詐欺をはじめとする特殊詐欺被害の発生状況は依然として高水準にあります。最近の特徴としては、少年らが「受け子」や「出し子」として特殊詐欺に加担して検挙されるケースが急増している状況です。少年らは、インターネットの掲示板等で高額報酬のアルバイトとして受け子等の情報を得て、アルバイト感覚で安易に特殊詐欺に加担するなど罪の意識が希薄であると言えます。

府中警察署では、市内の学校と連携すると同時に、被害防止教室を開催して、特殊詐欺の現況や加担した場合の末路・危険性について講話を実施し、少年らが特殊詐欺に関与するのを防止するための対策を講じております。保護司の皆様におかれましては、少年らと面接の際に、話題の一つとして特殊詐欺について触れたいいただき、少年らへの注意喚起をお願いできればと思えます。



児童と教師の信頼関係が育むもの

南白糸台小学校の道徳授業参観・懇談会

■10月9日（火）13時半～16時

参加保護司 23名

■府中市立南白糸台小学校

森嶋正行 校長

■6年3組 石井良子 先生

児童 34名

■主題と資料

努力する姿

― 一本の線・一つの点―

冒頭、黒板に提示されたのはただ
たどしい筆跡のカナ文字五十音。こ
れを見てどう思うかという発問から
授業が始まった。事故で身体機能麻
痺の障害を負いながらも、精神的に
美しい詩画集を世に問うている星野
富弘さんの手記が今日の授業の資料
だ。重いハンディにもかかわらず、
口にくわえたペンで点を打つことか
ら始まり、細密な花々の絵を描く



までになった星
野さんの姿から、
子供たちはきつ
と得るものがあ
るはずだとい
う、石井先生の熱
い思い入れがこ
もる授業であっ

さて、子供たちは星野さんの努力

する姿と自らの生活の接点をどこに

見出したであろうか。たくさんの意

見が発表されたが、「けがの有無に

関係なく大事なこと」、「星野さん

生き方に感動した」という感想に注

目したい。ここには、努力の量に

はなくその質に着目した気づきがあ

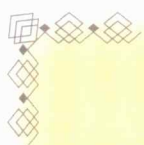
ると思うからだ。星野さんの努力に

というより、むしろ星野さんの努力

を通して人間の可能性ということに

教育現場を肌身で感じて

学校との連携委員会の活動から



共感を示している。

懇談会の席上、子供たちが先生を

信頼して授業に臨んでいるという指

摘があった。このことは、南白糸台

小の子供たちの自己肯定感の高さを

裏付ける全国学力・学習状況調査結

果と相まって、児童と教師の信頼関

係が良質な教育環境を醸し出して

ることの証左であると言えるのでは

ないだろうか。

不登校、子供の負を受け止めるとは

中学校生活指導主任会と保護司との懇談会

◆11月8日（木）16時半～19時

◆ルミエール府中コンベンションホール

◆来賓・出席者

東京保護観察所立川支部／府中市

教育委員会／府中市子ども家庭部

／府中市内都立高等学校／府中市

立小・中学校生活指導主任会

参加保護司 31名

◆講義「当事者の視点から見る不登校」

フリースクール全国ネットワーク

事務局長 松島裕之 氏

全力を尽くすとともに、不登校の期

間に応じたきめ細かい対応策を講じ

てきているとの報告があった。

当事者の視点から

講師の松島氏から、自身の不登校

体験を踏まえた話をうかがった。例

えば不登校の時期の家庭訪問の是非

について、相談に乗ってくれた、自

分を尊重してくれたといった好意的

な意見から、辛いのに来られた、見

捨てられたといった否定的な思いま

で、個々の複雑な反応があるという。

最も身近な家族の対応では、「自

分の思い通りにいかなかったとき、

それを自分で引き受けられるか」と

語った父親の言葉が印象に残ってい

るといふ。子供が不登校という負の

状態に陥ったとき、そこから自ら抜

け出すのを支えながら待ち、それに

付き合うとい

うのは、子供

を一個の主体

として受け止

める確かに重

要な局面であ

ろうと理解で

きた。

副委員長 杉浦 涉

不登校の現状と学校の対応

主任会の趣旨説明によると、ここ

5年間の推移は国、都ともに漸増傾

向にある。本市では横ばいだったが

一昨年から増加しているという。今

年度11月時点では、小中で169名を数

える。各学校としては、不登校を出

さないための様々な取り組みを工夫

している。だが、不登校になってし

まった生徒に対しては初期の対応に



今、子どもたちからのメッセージ 12・4(火)公開講演会開かる

地域活動部 中込 八重子

府中地区保護司会・府中地区更生保護女性会共催の公開講演会が、ル・シーニュ5階のバルトホールにて開催されました。

多くの方に開催をお知らせするために、広報活動として『広報ふちゅう11月11日「ひろば』と『ブラッヅ』のホームページにも掲載させていただきました。関係機関として、民児協・自治会・青少年対・PTA連合会・校長会および一般の先生方にもお声かけさせていただきました。「チラシのテーマを見て、是非お話を聞きたいと思った」と足を運んでくださった方や、小さなお子様連れのお母さん、ご高齢の方など150名ほどのの方々にお越しいただきました。

講師は関東医療少年院医務課長の遠藤季哉氏、「今、子どもたちからのメッセージ」不登校や非行から読み取れるもの」のテーマでお話をうかがいました。遠藤氏は、都立梅ヶ丘病院、都立小児総合医療センター児童・思春期精神科を経て現在に至っております。

講演では、次の4点についてお話下さいました。①教育方針の選択『あるネット記事から・教育的姿勢と医療的姿勢』②子どもと大人それぞれの道徳(規範感覚)『道徳(規範感覚)とは・道徳の発達段階・複様な道徳的判断と思春期心性』③不登校と非行『学校生活の大変さ・不登校と非行』④子どもたちのことばを読み解く『ことばの裏そのまた裏・言いたいこと言わせたいこと・ことばの効果と副作用』について、具体例を挙げて話されました。

教育情報には必ず別の考え方があ
る。一見矛盾した道徳的指導は思春
期の子どもの自信喪失や攻撃性・逃
避傾向など引き起こす危険性があ
る。しかも思春期においては必ず表
裏一体のものがあり、いかにそれを
乗り越える状態にもっていくかなど
について学び、深く考えさせられま
した。視点を変えた内容で、分かり
やすいお話を聞くことができました。

「更生保護サポートセンター 日野・多摩・稲城」を見学して

副会長 西腰 美恵子

昨年11月22日、府中地区保護司会の企画調整保護司13名が、日野・多摩・稲城地区保護司会(安西清会長)の更生保護サポートセンター(日野市、通称「サポートセンター百草台」)を訪ねました。

このセンターは、廃校となった小学校を利用して平成21年7月に開所。現在12名の企画調整保護司が交代で常駐し、会員への連絡など事務処理機能の集約化が図られています。面

接室、会議室、事務室、資料室、資材室があり、利用者数は年間延べ2千人を超えるそうです。

サポートセンターの存在であることを見学でき、府中地区の今後にも活かしていかれたらと思います。松本ちづ子センター長を始め皆様には大変お世話になり、感謝致します。



NO! DRUG
一薬物乱用防止推進活動から一
人気のクリアファイル

しなみ、させない、許さない、
みんなを止めるよう薬物乱用

東京都薬物乱用防止推進府中地区協議会
協力 東足トレイブルバス

東京都薬物乱用防止推進府中地区協議会(大山和男会長、府中地区保護司会からも参加)は、活動の一端として、市民まつりなどの際、来場者に啓発グッズを配っている。その中でもラグビートームの写真入りクリアファイルは、市民へのアピール度が高いようだ。

10月11日・12日の両日、さいたま市において関東地方保護司代表者協議会が開催され、1都10県より保護司約170名が協議員として参加した。

初日は、講演「子どもの虐待の現状と対応策」（講師は医師の山田不二子氏）に続いて2つのグループに分かれての協議会となった。①「地方再犯防止推進計画の策定に向けた自治体との連携の現状と今後の活動について」②「就労支援の現状と協力雇用主の開拓について」の2つの協議事項に関して基調報告があり、その後に行われた協議は時間が足りなくなるほど熱心に行われた。

再犯防止推進モデル事業の検証結果を踏まえた上で推進計画を策定することになっている地区、サポセンを相談場所として活用して相談・支援を行う検討をしている地区、推進計画検討会を設置して検討会を行っている地区などの報告があった。出所後の自動車等の運転免許証

関東地方保護司代表者協議会

地域活動部長 小澤 秀敏

の取り扱いなど、切実な問題も提起された。

就労支援については、サポセンを協力雇用主と共同利用していくことを予定している地区や、協力雇用主と保護司が共同で研修を実施している地区もあった。問題点としては、雇用主が土木建設業に偏っていることが挙げられ、今後の多様な雇用主の開拓が求められている。

2日目は、「刑の一部の執行猶予制度の現状と課題」について関東地方更生保護委員会主席審査官三宅仁士氏による行政説明があり、全体協議において前日行ったグループ協議の内容が報告され、講評で締めくくられた。

自治体が再犯防止に取り組む、地域社会全体で見守るための推進計画の概要が見えてきた。と同時に、再犯防止に対する課題も浮き彫りになった代表者協議会であった。



施設訪問の記(その2)

広報部長 大沢美保子

刑務所や少年院等の施設に収容されている対象者との面接のきっかけは、お互いの手紙のやり取りから始まった。

「先生は、私と会ったりしたいですか?」と少し控え目な書き方であったが、本人は多分面会を望んでいるのかなと思いきや主任官に相談した。それから毎年1回は、場所が変わっても、また対象者が増えても施設訪問を続けている。初めての訪問の際は今まで経験したことのないようなドキドキ感で、階段を上るのにも苦勞したが、直接話してからは気も楽になった。面接の前に担当刑務官が本人の現況を説明してくれる。面接時間は大体30分程度だが、保護司の場合制限はないそうだ。生活環境調整で引受人と会う時にも、こうした経験は役に立つ。以下に一連の流れを記すので、今後の参考になればと思う。

- ①主任官に希望日(候補は多めに)を知らせて、訪問日を決定。
- ②面接の報告書が送付されるので、面接終了後に提出。
- ③実費弁償金が支給される。

更女の活動

府中地区更生保護女性会
会長 西谷 照代

平成29年度に改選した役員任期が、東京更生保護女性連盟の要請を受け、今期のみ3年になりました。今後は保護司会の役員任期とは1年のずれができます。

更女は、平成30年10月現在355名の会員があり、理事66名が研修部・地域活動部・広報部に分かれ、各部が企画・立案し活動しております。今年度も会員の皆様とともに、府中市主催の子育て支援(保健センターの3才児健診のお手伝い)や中学校の道徳授業の参観及び協議会(今年度は府中四中にて実施)への参加。日帰り研修では、東京少年鑑別所で研修。会員同士の親睦も深めることができました。福祉まつりでは、ブースをお借りし更女のPRをしました。年1回広報紙「更女だより」も発行しています。その他にも各施設や幼稚園・保育園の行事に出席し協力するなど、更生保護活動のお手伝いはもちろんのことですが、子供たちの見守りや声掛け等、地域に広め、青少年の健全育成のため、日々研鑽に努めております。



○府中地区保護司会

法務大臣表彰

西腰 美恵子

全国保護司連盟理事長表彰

吉村 博子

北島 章雄

関東地方更生保護委員会委員長表彰

朝倉 俊夫

堺 美佐子

田中 節子

内藤 安雄

関東地方保護司連盟会長表彰

秋山 勤

伊藤 ゆきえ

山上 稔

東京保護観察所長表彰

杉浦 渉

隆 ミワ子

内藤 治

奈良 元俊

若松 正子

田中 陽子

古川 耕央

小川 晴美

東京都保護司会連合会会長表彰

森岡 潤家

宮本 至隆

市毛 彰

藤井 幸夫

前田 久美子

東京保護観察所長感謝状

内助功労 吉村 成一

府中地区保護司会永年在会

二十年 伊藤 敏春

二十年 白井 正

十年 朝倉 俊夫

田中 節子

吉野 博文

○府中地区更生保護女性会

法務大臣感謝状

西谷 照代

東京保護観察所長感謝状

堺 美佐子

東京更生保護女性連盟会長表彰

那須 史子

○第68回社会を明るくする運動

東京保護観察所長感謝状

府中市立府中第四中学校合唱部

東京都立府中西高等学校合唱部

大田区保護司会第6分区と

府中地区保護司会との合同研修会

府中地区保護司会研修部（伊藤敏春部長）による他地区保護司会との交流会は、今年度は8月24日、府中市市民活動センタープラッツにて大田区保護司会（横山和文会長）の第6分区との間で開催された。両保護司会から各20名ずつの参加者があり、活気に満ちた合同研修会となった。

谷合会長の挨拶にあったように双方の保護司会には共通点が多い。エリア内には多摩川が流れ、大田区の矢口渡近くには新田神社がある。府中の分倍河原は北条・新田の古戦場であった。また、松原忠義大田区長と高野律雄府中市長は共に保護司の会の会長、副会長を務めている。お互いの活動発表や情報交換の中から、相手方の関心が高く、質問の多かった点を以下にご紹介したい。

《大田区保護司会について―更生保護サポートセンター》

当地区のサポートセンターは、平成20年、全国で初めて開設された6つのサポートセンターの一つで10周年を迎えた。廃校となった小学校の



建物を使って、年間約900件、延べ約3千人の利用がある。保護司面接については、センター以外に区の出張所など20ヶ所、夜間の利用も可能な面接場所が用意され、区から大きな便宜が図られている。

《府中地区について―学校との連携、日帰り・宿泊・実務研修など》

府中地区の学校との連携は、毎年もらう活動報告書など見ても、充実していて素晴らしい。普段の活動はどのように行われているのか？

研修については、出席率アップや、研修旅行のやり方・会計上の工夫など質問が多岐にわたった。

大田区保護司会では、毎年新任も20名近くあるが、今後の退任も多く、横山会長はこうした交流会で見聞を広め、役立

てたいと話していた。

（広報部長 大沢 美保子）



網走刑務所訪問 宿泊研修に参加して

研修部 石塚 百合子

9月2日から2泊3日で北海道網走刑務所訪問と知床半島見聞の宿泊研修に出かけました。

1日目は晴天に恵まれ、機上から緑と黄色のパッチワークが広がる中、曲がりくねった銀色の帯が海に注ぐ北の大地がそれは美しく、見とれているうちに女満別空港に降り立ちました。バスに乗り込み最初に流水館を見学。清水原生花園、オシロシンの滝の壮大な流れを満喫、羅臼国後展望台デッキからは国後島がくつきりと望め、北方領土に対する道民の思いに触れ日本固有の領土であることを再認識しました。

2日目は、いよいよ世界自然遺産に認定された知床帯をオホーツクの海岸線に沿って



流水館にて



網走監獄の内部

移動し網走刑務所へと向かいました。網走監獄は明治時代に屯田兵や囚人によって建てられた木造建築で現在は博物館として公開されています。日本最北端にある網走刑務所が、ソ連からの脅威を防ぐという大きな役割も担って建てられたという歴史的背景をお聞きし、隣国と接している地域の緊張感、厳しさを改めて感じました。所長の白鳥政昭さんには直々に大変丁寧なご案内を頂きました。所内では、更生に励む約70名の服役者を見守る刑務官の規律ある様子に背筋が伸びる思いがしました。幸運なことに、移動中はキタキツネ・エゾシカ・タンチョウ・クマの

親子に出会い、野生動物と共存するために人間がなすべきことを常に考えて行動する北海道の人々の懐の深さに感銘を受けました。
3日目は台風21号を避けるため予定を繰り上げ早い便に変更し、夕刻羽田空港に戻りました。旅行会社やバス会社の皆さまのご配慮には敬服いたしました。帰宅して僅か2日後の北海道胆振東部地震にはとても驚きました。被害に遭われた方々に対し心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い復興を願ってやみません。



網走刑務所にて

府中地区保護司会コラム① 大田区保護司会第6分区との交流研修会を終えて

研修部 林 宏 至

ようやく夏の終わりが見え始めた8月24日に大田区の保護司さんをお迎えして、府中地区と大田区第6分区との交流研修会を行う運びとなりました。

我が府中市の象徴でもある大國魂神社への散策をしていただいた後、ル・シーニュの会議室へ会場を移し、様々な意見交換が行われました。

私も、他地区の保護司さんとお話をさせていただくのは初めてで、保護司としてどのような問題、また課題などがあるのかを勉強する良い機会をいただきました。私事の話で大変恐縮ですが、今から30年前、当時の彼女が大田区に住んでおり、5年くらい大田区へお邪魔していた関係もあり、今回の大田区保護司会の皆さんとの交流会を楽しみにしておりました。私も質問をしましたが、地域性などの違いで犯罪の傾向や、対象者への対応などの違いがあるのか、大田区での保護司さん同士の関わり方などをお聞かせいただきました。

基本的にはあまり違いはなかったようで、保護司として対象者の更生に努めるということ、交流会を通して改めて学ばせていただきました。

☆インタビュー☆
先輩に聞きました

実もたわわな大きな柿の木に囲まれた御自宅で、府中地区桐友会会長の松本俊雄さんにお話を伺った。

「新任の頃、対象者との初めての面接では、保護司としての責任の重さに身の引き締まる思いだったのを今でも鮮明に覚えている」とのこと。「父親がエリート、期待に応えられず、家庭内暴力もあり高校も中退」と色々あった事案で、結果的には立ち直り家庭も持ったという若者がいた。当時我が子が同年齢位だったのでも、とても印象深かった」と語られた。インタビュウ中に折顔をみだされていた奥様も、「そうでした。双方とも難しい年頃でしたから」と頷かれていた。強面の対象者が来訪した時には、夫一人での対応が心配で台所でわざと聞こえるように調理の音を立ててみたりした事もあったそうだ。朝早くに本業の農園の仕事をする。PTAや青少年、西府駅周辺の街づくり等々に関わり、介護も重なり、勿論対象者も持ち、第5代会長も務めと多忙な36年間を「若かったから出来た」と振り返られる。

桐友会ミニ情報

- ◆保護司や保護司会を支える全国的な団体。各地区に組織されている。
- ◆入会は任意だが、保護司歴が約15年以上で、ほぼ定年での退任者が対象になる。
- ◆府中地区の会員は現在13名。総会開催、社明運動への協力、保護司候補者情報の提供、保護司会行事への参加等の活動を行っている。



保護司会の新年会に出席された桐友会の皆様
松本さん 久村さん 南部さん

「府中が一つの地区になって良かったが、大きな地区に比べると一人一人の負担が大きくなり大変になったのでは」と後輩を気遣う。拜命時、諸手をあげての賛成ではなかったとおっしゃる奥様。しかし理解し支え合ってきた36年間だったことは明らかだ。叙勲記念写真のお二人が、とても素敵にみえた。PS・先輩方の貴重なご意見等は、『創立20周年記念誌』『保護司会だより第37号』にも載っているの、再読をお願いしたい。

聞き手・広報部 野口 良子
前田久美子

活動日誌抄

- 9月
 - ・関東医療少年院「生命のメッセージ展」
 - ・多摩連 第2回研修部会
 - ・保護司等中央研修会
- 10月
 - ・都薬物乱用防止推進府中地区協議会
 - ・府中刑務所 運動会
 - ・社会貢献活動 安立園
 - ・関東地方保護司代表者協議会
 - ・福祉まつり薬物乱用防止啓発活動
 - ・第2回特別研修「就労支援」
 - ・第2回東京保護司代表者協議会
 - ・第7ブロック組織運営連絡協議会
 - ・多摩連 第2回総務部会
- 11月
 - ・府中刑務所 第43回文化祭
 - ・府中市子ども家庭支援センター 関係機関研修会
- 12月
 - ・東京更生保護事業関係者顕彰式典
 - ・多摩連受賞祝賀会
 - ・関東医療少年院クリスマス会
 - ・第3回特別研修「対象者の住居確保」
 - ・第3回東京保護司代表者協議会
- 1月
 - ・多摩連 保護司全体研修会
- 2月
 - ・府中地区更生保護女性会懇親会

編集後記

10月初めの台風は、日本列島を縦断し暴風が吹き荒れました。府中では天然記念物のけやき並木の大きな木やさくら並木のさくらが倒れるなど、今までに経験をしたことが無いようなことが起きていて自然災害の恐ろしさを痛感しました。

さて、広報紙は、全体構成・割り付け・記事の依頼・原稿の読み合わせ・記事の構成など部長を中心多くの部員が時間をかけて作成しています。皆様のご協力が不可欠です。で、引き続きよろしくお願いたします。

広報部

部長	大沢美保子	伊藤 仁
副部長	杉浦 渉	秋山 勤
書記	若松 正子	古川 耕央
会計	野口 良子	前田久美子
	三浦智恵美	山上 稔

題字は高野市長の揮毫によるものです